

# 複数の『SS7』データを連結して新たな物件データを作成する

複数のSS7物件データやCSVファイルを対象に、部分的に抽出したデータを連結して、新たな物件データやCSVファイルを生成します。

## 本プログラムの説明

SS7物件マージ

物件パス(1)

①

② 物件選択

物件のCSV情報 ③

抽出したCSV情報 ④

⑤ 抽出 >>

⑥ << 取消

⑦ すべて選択

⑧ CSV確認

⑨ すべて選択

⑩ CSV確認

⑪ 保存

⑫ 終了

⑬ 戻る

⑭ 次へ

起動画面

1. 『SS7』物件データまたはCSVファイルのパス名を入力します。
2. 上記パス名を入力後に【物件選択】ボタンを押すと、データを読み込み後に「物件のCSV情報」を表示します。
3. 読み込んだデータの情報を表示します。項目の詳細については、『SS7入力データCSV出力』解説書を参考にしてください。
4. 抽出したデータの情報を表示します。
5. 選択した「物件のCSV情報」を抽出します。
6. 選択した「抽出したCSV情報」を取り消します。
7. 「物件のCSV情報」の全項目を選択、未選択にします。
8. 「物件のCSV情報」のCSV情報を確認します。
9. 「抽出したCSV情報」の全項目を選択、未選択にします。
10. 「抽出したCSV情報」のCSV情報を確認します。
11. 「抽出したCSV情報」を保存する画面を表示します。
12. プログラムを終了します。
13. 前の画面に戻ります。画面左上の物件パス(x)に現在の画面番号を表示します。※最大100画面
14. 次の画面に進みます。画面左上の物件パス(x)に現在の画面番号を表示します。※最大100画面

保存

保存するパス名

①

保存形式

②

☒ CSVファイル ☐ SS7データ

③ 保存 ④ CSV確認 ⑤ 取消

## 保存画面

1. 保存するパス名を表示します。  
パス名の初期値はカレントフォルダの"csv\_xxx.csv"、"ss7data\_xxx.ikn"になります。  
パス名を変更することもできます。
2. 保存形式を選択します。
3. データを保存します。
4. 保存するCSV情報を確認します。

5. この画面を閉じます。

## 本プログラムの実行方法

---

### 1. データ準備

本プログラムで利用する、『SS7』物件データまたは入力データCSVファイルを用意します。

### 2. プログラム実行

コマンドラインからプログラムを実行します。

```
例) C:に「example」というフォルダ名で配置する場合  
cd C:\example\src  
python BkMarge.py
```

## 注意事項

---

- 本プログラムは『SS7』Ver.1.1.1.19で動作確認を行いました。
- 物件選択で『SS7』データパス名を入力すると、最新バージョンの『SS7』が起動して、必要であればデータ変換を行います。
- 複数の物件データから抽出するため、出来上がった物件データやCSVファイルが『SS7』で読み込めない場合があります。このプログラム上では読み込みの判定は行っておりませんので、『SS7』側で確認するようにお願いします。

## 『Op.Python実行』の設定手順

---

Ss7Pythonライブラリを使用するための設定手順です。

1. 『SS7』を起動し、[ツール - 環境設定 - Op.Python実行]画面を表示します。
2. “利用可能なPython言語のバージョン”を選択し、[デスクトップへコピー]ボタンをクリックします。
3. デスクトップにある「Python」フォルダごと、「src」フォルダにコピーします。

## 必要な外部ライブラリ

---

このプログラムは外部ライブラリを使用していません。

## 著作者

---

Copyright (C) 2024 UNION SYSTEM Inc.

## ライセンス

---

本プログラムは MIT License に基づいています。「LICENSE」を確認してください。